

平成26年度第1回新名取市図書館施設整備検討委員会議事録

会議名	第1回 新名取市図書館施設整備検討委員会	
日時	平成26年11月21日(金) 10時00分～12時00分	
場所	名取市図書館 南館	
出席者 【18名】	委員9名	早川光彦、志賀保史、佐伯幹子、板橋正春、天間環、 福間澄絵、三塚玲子、下澤なおみ、長沼明子
	アドバイザー	岡本真
	名取市教育委員会 事務局4名	瀧澤信雄教育長 生涯学習課 川村美保子課長、佐々木賢一課長補佐 図書館 柴崎悦子館長、石川雅一主査
	説明員2名	増田復興再開発推進室 車塚仁悦室長、小林浩室長補佐
欠席者	委員1名	大野千春
傍聴者	1名	

◎事務局

それでは、皆様、おはようございます。

定刻より早いのですが、ご欠席の連絡のあった方を除きまして、全員おそろいいただきましたので始めてまいります。

本日は大変お忙しいところご出席いただきありがとうございます。

平成26年度第1回新名取市図書館施設整備検討委員会を始めてまいります。本日は1回目の会合ですので、会に先立ちまして委嘱状の交付をさせて頂きたいと存じます。名簿順にお名前を読上げますので、恐れ入りますが、その場でご起立をお願い致します。

○委嘱状の交付 瀧澤教育長から欠席者を除く委員全員に交付

○第1回新名取市図書館施設整備検討委員会

1 開 会

◎事務局

資料の確認をお願いいたします。資料は次第・名取駅前地区市街地再開発事業・新図書館の基本的な考え方・図面です。

それでは早速ですが会議に入ります。

開会に当たりまして、名取市教育委員会 瀧澤教育長よりご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

◎瀧澤教育長

皆さん、おはようございます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

名取市の図書館は、だいぶ前から施設の老朽化、交通の便、図書館としての広さの問題を解消するため、新しい図書館建設を計画しておりましたが、この度、名取駅前の複合施設の中に新図書館を建設するという事で具体的に計画が進んでいます。

名取市の読書への取り組みは、これまでの図書館は十分な施設とは言えないところがありますが、図書館職員の努力等で読書にはかなり力を入れて取り組んできたと言えるのではないかと考えています。

一つのデータとして、毎年文科相で全国学力学習状況調査を行っています。その中にある質問項目で、「昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり借りたりするために、学校図書館、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」という質問があります。これは小学校5年生と中学校2年生を対象としておりますが、週に4回以上・週に1回以上・月に3回程度という回答を含めると、全国平均では小学校では42.9%ですが、名取市では51.1%となっております。中学生では同じく18.9%ですが名取市の中学生は30.5%という結果となっております。名取市の子どもたちは他の地域に比べて本に親しむ、あるいは図書館・図書室を多く利用していると言えるのですが、一方半数以上はほとんど利用しておらず、中学校では7割近く子どもたちが利用しないという状況はかなり問題であると考えています。

こうした子どもたちの状況を名取市が他の市町村に先駆けていち早く学校に司書を配置していることとか市の図書館のいろいろな取り組みの一つの成果ではないかと考えております。

名取市の図書館はご承知のとおり3月11日の東日本大震災によって施設がかなり痛みまして休館しておりましたけれども、ユニセフやカナダからの支援をいただきまして、どんぐりアン子ども図書室やどんぐりみんなの図書室を建てていただき再開しているところです。

この間、柴崎館長を中心に非常に精力的にいろいろなことに取り組んでおります。

昨年度からは、学校図書館との連携を図るための支援センターをつくっております。

それからこの前はガリレオ工房というところに来ていただき、「Let's 理科読」という取り組みをしたり、年にかんりの回数の昔話や絵本の読み聞かせを行ったり、先日は文化会館で「歴史の中の教科書」という企画展なども行っております。

そういった精力的な取り組みを行っているのですが、名取市の図書館としては、ハード面・ソフト面とも十分なものを備えているという状況ではありませんので、冒頭にお

話しましたように、駅前の複合施設の中に新図書館を建設するというところでいろいろと準備が進んでいるところです。そのような中身についてこれから事務局等から説明がありますが、教育委員会といたしましても、名取市といたしましても、ハード面・ソフト面、これまでの成果を十分に検証しながらよりよい図書館をつくって、これまで以上に市民の皆さんが読書に親しめるような環境整備を図っていきたいと考えておりますので、委員の皆さんの忌憚のないご意見をお願いできればと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

(瀧澤教育長退席)

3 委員会概要説明

◎事務局

委員会の概要について説明させていただきます。次第の2ページ目に新名取市図書館施設整備検討委員会設置要綱が入っております。

本日の会議はこちらの要綱により開催しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。なお、事務局の不手際により事前に資料をお送りできなかったこと、大変申し訳ございませんでした。お詫びを申し上げます。

また、会議の条項につきましては第6条に記載されております、委員長が召集しその議長となる、となっておりますが、本日は1回目の会議ですので、教育委員会教育長の名前で召集させていただいております。

なお、本日の会議は10名中9名の委員に出席いただいております。要綱の中では会議成立の人数について触れてはいませんが、本日はこの人数で進めてまいります。

本日の会議は名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に該当し、公開の対象になります。本日、傍聴席を設けており、傍聴者1名いらしております。

また、非公開となるような議事は用意しておりませんが、万一非開示情報が入る場合は、会議に諮り決定していただくことになっております。

さらに本日の会議録ですが、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第9条の規定によりまして、市政情報コーナーで会議を開催した日が属する年度の翌年度の4月1日から起算して3年間、閲覧に供される他、インターネット上、市のホームページに1年間掲載されます。

なお、公開時の名前は、名字 ○○委員と表記されますのでご承知願います。

4 委員等自己紹介

◎事務局

本日は最初の会合ですので、名簿順に自己紹介をお願いいたします。

◎早川委員

名簿No.1の早川光彦といます。出身・生まれ育ちは仙台市泉区です。今まで3つの図書館に関わってまいりました。仙台市の図書館、一関市市立川崎図書館、そして今年の3月まで福島県南相馬市立図書館の司書として仕事をしており、4月から富士大学に移り図書館司書養成の専任教員をしております。名取市の図書館が新しくなるということで、大変楽しみにしております。どうぞよろしく申し上げます。

◎志賀委員

おはようございます。志賀保史といます。相互台小学校の校長及び名取市の教育研究会の学校図書館部会の会長もしていることから選任されました。どうぞよろしく申し上げます。

◎佐伯委員

皆様おはようございます。佐伯幹子と申します。現在増田西小学校父母教師会長をさせていただいております。読書推進員もさせていただいておりますので、今回委員お引き受けいたしました。どうぞよろしく願いいたします。

◎板橋委員

こんにちは。私もここに書いております名取市社会教育委員の仕事をさせていただいております。よろしく願いいたします。

◎天間委員

失礼します。天間環といます。尚綱学院大学のこども学科教授をしております。この会のほかにもここに書いてありますように図書館協議会の委員として関わらせていただいております。今後ともよろしく願いいたします。

◎福間委員

おはようございます。福間澄絵でございます。ここに書いてありますように名取市子ども読書活動推進協議会の副会長をさせていただいております。本当に微力でございますが、精一杯がんばりますのでよろしく願いいたします。

◎三塚委員

おはなしキラキラの会からまいりました三塚と申します。よろしく申し上げます。ちょうど昨日教育公務員弘済会の奨励金をいただいた事業を実施し、一段落したとこ

ろでございます。主に図書館を中心に活動させていただき、反対にお世話になったりしております。よろしくどうぞお願いいたします。

◎下澤委員

下澤と申します。名取市図書館のボランティア活動をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

◎長沼委員

おはようございます。社会福祉協議会がやっております介護サービス事業ほつとなどりの所長を務めております長沼明子と申します。よろしくお願いいたします。

◎事務局

No.10の大野委員は本日欠席の連絡をいただいております。

それでは、皆さんの名簿の次のところにアドバイザーと書いてありますが、岡本さんよろしくお願いいたします。

◎岡本真アドバイザー

よろしくお願いいたします。岡本と申します。アカデミック・リソースガイドという図書館のコンサルティングの会社をやっております。そういう立場もあるのですが、私の場合は、この名取の図書館のどんぐり図書室をつくる上で支援に入りました、saveMLAKという団体の代表をしております、こちらの縁から今回の新図書館建設に関してのアドバイザーをさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

◎事務局

ありがとうございます。それでは事務局からも自己紹介させていただきます。

◎川村課長

おはようございます。生涯学習課長の川村美保子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

◎佐々木課長補佐

生涯学習課長補佐の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。なお鈴木と大沼は欠席させていただいております。

◎柴崎館長

名取市図書館の館長の柴崎悦子と申します。よろしくお願ひいたします。なお西山は欠席させていただきます。

◎石川主査

おはようございます。同じく名取市図書館の石川です。よろしくお願ひいたします。

◎事務局

本日の会議の議事でいろいろと説明していただく関係から、名取市震災復興部から 2 名の職員に来ていただいております。自己紹介をお願いします。

◎車塚室長

皆さん、おはようございます。名取市震災復興部増田復興再開発推進室の直接名取駅前市の街地再開発事業を担当いたします、室長の車塚でございます。本日は、室長補佐の小林と 2 名参加させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

5 議事

(1) 委員長、副委員長の互選について

◎事務局

それでは、議事に入りますが、本来であれば委員長の進行となるのですが、本日が 1 回目の会合ということで、委員長・副委員長が互選していただく間、暫時、川村生涯学習課長に仮議長となって進行していただきますので、よろしくお願ひいたします。

◎川村課長

それでは、委員長・副委員長を互選していただく間の仮議長ということで会議を進行させていただきます。

新名取市図書館施設整備検討委員会設置要綱第 5 条によりまして、委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定めるというふうになっております。委員の互選によりまして、委員長及び副委員長を選んでいただきたいと思いますけれども、いかがいたしましょうか。どなたか、自薦でも他薦でも結構です。

(事務局案の提示を求める声あり)

事務局案という意見が出ましたけれどもよろしいでしょうか。事務局案がありました

らよろしく申し上げます。

◎事務局

それでは事務局案ということですが、委員長に名簿No.1 早川委員に、副委員長に名簿No.5 番の天間委員、このお二人にお願いしたいというのが事務局案でございます。

◎川村課長

ただいま事務局案といたしまして、委員長としてNo.1 の早川光彦委員、副委員長にNo.5 の天間環委員にという事務局案がございましたけれども、それでよろしいでしょうか。

(委員一同「はい」の声)

それでは事務局案どおり、委員長に早川委員、副委員長に天間委員に決定させていただきます。よろしくお願いたします。では、これで仮議長を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎事務局

それでは早川委員長、議事（2）以降、進行をよろしくお願いたします。

◎早川委員長

委員長を仰せつかりました富士大学の早川です。どうかよろしくお願いたします。

それでは早速議事を進めさせていただきます。

次第の議事（2）名取駅前地区市街地再開発事業について、事務局から説明をお願いいたします。

（2）名取駅前地区市街地再開発事業について

◎小林室長補佐

名取市震災復興部増田復興再開発推進室の室長補佐をしております小林といたします。

私の方から再開発の概要についてご説明をいたしますので、よろしくお願いたします。

3月11日の東日本大震災においては、沿岸部の津波被害がありましたが、内陸部である増田地区においては住宅の被害、店舗の被害等が多数ございました。図書館も被災を受けて現在このような形になっておりますし、増田公民館も被災を受けて解体して現在は更地の状態になっております。

震災以降、町の活性化は低下しており、名取駅前に賑わいと活力を取り戻すために、

図書館及び公民館を核とした再開発による複合施設をつくろうということで動き始めております。

お手元にお渡ししました名取駅前地区市街地再開発事業の資料によりご説明させていただきます。

まず始めに1ページをお開き下さい。

名取駅前の再開発につきましては、平成25年3月21日に名取駅前地区復興市街地再開発協議会という組織を立ち上げました。その後、当協議会の中でどのような施設にしようか検討しながら、平成26年10月29日に準備組合を立ち上げ、平成27年9月ごろ組合設立に向けて準備に入っております。

開発の区域については、既にご存知のことかとは思いますが、資料1ページに再開発施工区域ということで赤く印がつけられている名取駅東口の約0.8haの広さの土地を、再開発を行うということで現在進めております。

2ページになります。

どのような再開発の構成になっているのかをご説明いたします。

真ん中にA棟があります。こちらは商業施設・公共公益施設の配置を考えております。

3ページの断面図を見ていただくと分かるのですが、1階が店舗、2・3階が図書館、4階が公民館という構成で建物を計画しております。

県道に面したところにB棟を建築する予定ですが、B棟につきましては1・2階が生活利便施設とし、コンビニエンスストア、クリニック、薬局、学習塾等を入れる予定としております。3階から11階までは1フロア6区画で全部で54戸の集合住宅ということでマンションを計画しております。

2ページの平面図に戻りますが、P棟は駐車場棟ということで駐車台数102台の整備を予定しております。

続きまして4ページになります。企画提案を受けている(株)山下設計、(株)関・空間設計、(株)都市デザインからプロポーザルの企画提案を受け採用した完成イメージ図となります。正面がマンション棟になりまして、その裏側が公共公益施設ということで建築を予定しております。建物の前面にはデッキを配置しまして、名取駅東西自由通路とデッキをつなぐペデストリアンデッキを建設する予定としております。

5ページはスケジュールになります。

上の段について、開発を行う上では今後、都市計画決定が必要になります。都市計画決定を平成27年2月ごろに受けて、その後施工区域の公告を行うこととしております。

真ん中の段は再開発事業についてのいろいろな手続きについて載せております。10月29日に準備組合設立、その次は組合認可申請を平成27年4月ごろに行い、組合設立は平成27年9月を予定しております。併せて事業計画の認可を受けるということで動いております。組合解散は平成30年2月ごろを予定しております。

工事につきましては一番下に載せております。現在基本設計に入っておりますが、今年12月中にまとめて、その後実施設計に入っていきます。工事が始まる予定は、工事監理20か月ということで平成28年5月着工を予定しております。竣工は平成30年1月に完成予定ということで進んでいるところです。

この事業は復興交付金の事業費を見込んでいるのと、組合方式による保留床、床を売る分を事業費にまわすというものと、2つの財源を持って行うこととしております。復興交付金の方は10月15日に第10回の復興交付金申請しており、12月はじめに出る内示を待つばかりとなっております。

以上、再開発事業について簡単ではありますが説明を終わらせていただきます。

◎早川委員長

説明ありがとうございます。名取市にとって駅前の一等地に図書館が新設されるということで、ただ今説明がありました賑わいの創出の点においても非常に期待ができる施設かと思われまます。それではただ今の件について、ご質問・ご意見をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

◇質疑応答及び意見交換

◎板橋委員

復興交付金等を活用するのは公共施設だけですか。マンションはどうなりますか。

◎小林室長補佐

全体事業費は再開発事業として建てる建物全てに係る費用が約60億円で、そのうち復興交付金の対象となるのはその3分の1の約20億円となります。対象となるのは皆さんが共有部分として使う階段や駐車場等の部分となります。その他の40億円分につきましては、工事価格を床代に置き換えそれぞれの部分を購入していただき工事費に充てて事業を進めるということになります。ですからマンション等も復興交付金は入ることになります。

◎板橋委員

名取市が出す財源はどうなりますか。

◎小林室長補佐

再開発事業で行うのは建物本体に対してのみ復興交付金が配分されておりますので、内装工事代、必要とする面積相当分の床取得代は市単独費を出し整備していくことになります。

◎早川委員長

名取市の単独財源はどのぐらいの見込みか、もし分かればお話しいただけますか。

◎小林室長補佐

資料を持ち合わせていないためお答えできません。

◎早川委員長

わかりました。単独財源の使用が出る見込みであるということによろしいですね。

◎小林室長補佐

そのとおりです。

◎早川委員長

復興交付金について様々な自治体で使っていていろいろな声をお聞きするのですが、事業の完了についての制約があるのかどうかを教えてくださいませんか。と言いますのは、私がいた南相馬市でも復興交付金の活用について候補に挙げたのですが、検討している中で事業年度が非常にタイトで計画すら組めないという事例がございましたので、心配も含めて教えていただければと思います。

◎車塚室長

事業の原資が復興交付金ということで進めておりますが、皆様のお手元の資料 5 ページのスケジュール表がございます。これは復興庁に提出しているものです。平成 30 年 1 月竣工というのが当面の予定スケジュールであり、復興局からの了解をいただいております。なお、復興交付金は年度ごとの申請になっており、第 1 回目の復興交付金は災害から 1 年経った後にありました。今回、市街地再開発事業の調査設計費 3 億 8 千万円ほど認められております。それをもって測量、地盤調査、補償調査等を行っています。この時点で復興庁から再開発事業を進める上で、ある程度見通しをつけないと次の工事費、補償費関係は認められないので見通しをつけるよう話をされました。昨年 3 月に地元権利者 22 名による協議会が立ち上がりまして、具体的な補償費をご提示しながら権利者交渉を進めております。先月 10 月 29 日に準備組合が立ち上がりまして、権利者の方々のご了解をいただいて事業を進められるということになりました。平成 27 年度の予算としては、地権者に対するその補償費と除却費（整地費用）が認められる見込みです。また、平成 27 年度に工事費を新たに申請するようになります。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。

では、議事（3）新名取市図書館計画に現状について事務局から説明をお願いいたします。

(3)新名取市図書館計画に現状について

◎柴崎館長

それでは私の方から資料 新図書館の基本的な考え方を使いながらご説明させていただきます。

まず、表紙に新図書館のテーマとありますが、新しい図書館をつくるにあたって 3 つのキーワードを考えました。「やすらぎ」「つどい」「ひろがる」この 3 つのキーワードを基に施策を展開していくようになります。その下にある図ですが、キーワードから

イメージできる新しい図書館像ということで書いてあります。「やすらぎ」というキーワードからは<やすらぎ、憩える図書館>、「つどい」というキーワードからは<感動の共有できる図書館>、「ひろがる」というキーワードからは<広がり、創造する図書館>、箱に書いてあるものはさらに具体的なイメージになります。

2 ページをお開き下さい。

ここからは新図書館の基本方針となります。一つ一つ細かくご説明したいところなのですが、時間の都合もありますので、項目のみ読み上げまして、説明は解説が必要などころや特に力を入れたいと思うところなどをしていきたいと思えます。

まず「やすらぎ」というキーワードからですが、開館時間を延長します。現在、名取市図書館の開館時間は平日は午前9時から午後6時まで、土・日曜日は午前9時から午後5時までとなっておりますが、この開館時間を延長したいと考えております。平日火曜日から金曜日は午前10時から午後8時まで、土・日曜日の開館時間は、午前10時から午後6時までとしたいと思えます。さらに現在行っておりません祝日開館の実施、開館時間は土・日曜日と同様に考えております。休館日ですが、月曜日・年末年始、年末年始は現在12月28日から1月4日までとなっておりますが、12月29日から1月3日、毎月の館内整理日はそのまま設けたいと思っておりますが、特別整理期間は連続して5日程度として現在よりも大幅に短くしたいと考えております。

ユニバーサルデザイン・バリアフリーに配慮した施設整備を行います。

授乳室や幼児トイレを設置したいと考えております。

学習室の設置を検討します。こちらは特に現在の図書館でも要望の多いところなのですが、名取駅前に図書館が移るということで、高校生、それから高専あるいは尚絅学院大学の学生さんたちがたくさん来館することが見込まれます。名取市図書館においては若い人たちにたくさん来てもらえるような図書館をつかっていきたいと考えておりますので、学習室の設置を検討していきたいと考えております。

次に、自然光を含めた図書館独自の照明システムを導入したいと考えております。できるだけ自然光を取り入れるような工夫をしたいと考えております。

3 ページになります。

低い木製書架の導入を検討します。木製書架は温かみがありますが値段が高価ということで、全て木製で揃えるということはかなり難しいかとは思いますが、できるだけ木の温もりを感じられるような書架を導入していきたいと考えております。

畳のコーナーの設置を検討します。

広々とした床面積を確保します。

ゆったりとした開架フロアを実現します。

開架書庫（準開架）を導入します。限られた施設面積の中で、ゆったりとした開架フロアを実現するためには、開架できる蔵書数は限られておりますが、できるだけ利用者の方が目で見えて借りられるような工夫をしたいと考えております。

多目的ルームを設置します。現在名取市図書館では、さまざまな各種行事を行っておりますが、それらが図書館の中で行うことができるようなスペースをつくりたいと考えております。

ゆったりとしたブラウジングコーナーを設置します。ブラウジングコーナーというのは新聞や雑誌をゆったりとくつろぎながら読めるコーナーのことです。ここには居心地の良いソファ等を置いてリラックスして読書できるように考えています。

4 ページになります。

調査・研究用スペースを整備します。

カウンターを効率よく配置します。

効率的に管理運営が行える事務管理スペースを確保します。

市民がわかりやすいサイン計画を導入します。図書館に入ってきてどこに行ったらよいか分からないといったことのないように、見やすく分かりやすいサインを考えたいと思います。

的確な新設な接遇を実現します。

5 ページになります。

「つどい」というキーワードで、感動の共有できる図書館ということになります。

市民の課題解決のための情報拠点としての図書館を目指します。これからの図書館は本を借りたり返したりするだけの図書館ではいけないと考えております。市民の課題解決のための図書館、情報拠点となるような図書館を目指していきたいと思っております。

レファレンス機能を充実します。レファレンスというのは、調査・回答業務で、充実させていきたいと考えております。

豊富な蔵書冊数を確保します。新図書館は最大収蔵能力30万冊以上と考えております。それから開館時には18万冊を目指しております。

多くの年間購入冊数を確保します。新図書館では年間1万冊以上の購入を目指したいと思っております。

多くの年間雑誌購入点数を確保します。現在の雑誌の購入点数ですが約100点ほどですが、新図書館においては年間200点以上の受け入れを目指したいと思っております。

6 ページになります。

多くの視聴覚資料点数を確保します。名取市図書館で視聴覚資料を収集し始めたのが平成21年度からなので、点数としてはまだ1,324点ほどですが、新図書館においては1万点の視聴覚資料を目指したいと考えております。

広域サービスを充実します。多様な市民のニーズに応えるため、公立図書館の広域ネットワーク、仙台都市圏や宮城県図書館との連携・協力を積極的に行いたいと思っております。

尚絅学院大学や仙台高専図書館との連携を推進します。

児童コーナーを充実します。名取市図書館において、現在はファミリー層、子どもたちの利用、親子での利用というのは非常に多いのですが、新図書館においてもこのようなファミリー層の利用サービスに力を入れてまいりたいと思っております。

ヤングアダルトコーナーを設けます。ヤングアダルトというのは中高生のことでティーンズと呼ばれることもあるのですが、新しい図書館においては中高生の利用がたくさんあると考えられますので、充実させて特に力を入れていきたいと思っております。また、コーナーの運営にあたっては市内の中学校・高校等と連携して学生さんたちに積極的な

企画運営の参画を行ってもらいたいと考えています。

多彩な講座を開設します。現在もいろいろ各種イベントを行っておりますが、新しい図書館に移ってもさらに充実させていきたいと考えております。

7ページになります。

時代ニーズに対応した高度な IT 機能を持った図書館を実現します。インターネットや電子媒体といった高度な IT 機能を持つようにしていきたいと考えています。

マルチメディアセンターとしての機能を充実させます。平成 22 年度に視聴覚センターを廃止し、その業務を名取市図書館に統合させています。新図書館においても、視聴覚センターの機能を今までどおり充実させていきたいと思っています。

商用データベースを提供します。有料データベースですのでお金がかかるのですが、積極的に検討してまいりたいと考えております。

館内無線 LAN を導入します。全館 Wi-Fi を入れたいと考えております。

IC を活かした新たな図書館サービスを検討します。新しい図書館においては、IC タグを本に貼付しまして、自動貸出機・自動返却機といったものが使えるようにし、IC タグを活かした新たな図書館サービスを検討していきたいと考えています。

8ページになります。「ひろがる」というキーワードです。

図書館情報ネットワークの要としての図書館を実現します。下に書いてある図がイメージ図です。名取市図書館と公民館とのネットワークは構築されていますが、新しい図書館の開設にあわせて小・中学校ともネットワークを結びたいと思っております。

9ページになります。

「学校図書館支援センター」を充実させます。先ほど教育長からも話がありましたように、昨年 4 月から図書館に学校図書館支援センターというものが業務に入っていました。学校図書館支援センターを設置しましたので、これを活かして小・中学校との連携を一層強化していきたいと考えています。

公民館や地域と連携した図書館を実現します。名取市図書館の移動図書館は平成 24 年度末をもって廃止となってしまいましたが、現在移動図書館車の代りとしまして、司書が毎月 2 回、移動図書館車の巡回ペースと同じく公民館図書室を巡回し、貸出し、読書相談などのサービスを行っております。新図書館に移りましても公民館との連携は一層強化して行っていきたいと思えます。

市民の活動を支援する資料と情報が豊富な図書館を目指します。

市民活動団体との連携を強化します。

図書館ボランティアとの連携を強化します。現在名取市図書館では、約 30 名のボランティアが活動しておりますが、さらに連携を強化して図書館サービスを充実させていきたいと思っています。

10ページになります。

名取市の個性を活かしたテーマ性を持った図書館を目指します。図書館の個性が一番活かせる場所は、やはり蔵書構成にあるのではないかと考えておまして、名取というものが活かせるようなコーナーを考えております。現在でもすでに「空港・飛行機」コーナーというものはあるのですが、これらも充実させていきたいと思えます。それか

ら東日本大震災という未曾有の被害をもたらした大災害がありました。その後名取市図書館内に「震災関連資料」コーナーをつくりましてさまざまな資料を集めてまいりました。震災の記憶を風化させないようにするためにも、図書館でそのような資料を収集して保存して提供していくということが図書館の使命ではないかと考えておりますので、震災関連資料コーナーの充実はずいぶん行いたいと思っています。それから「カナダ」コーナーは現在もあります。どんぐり・アンみんなの図書室は、カナダ連邦政府・ブリティッシュ・コロンビア州政府等の支援によってできあがった図書館です。それから名取市は隔年でカナダのブリティッシュ・コロンビア州に中学生を派遣するという事業を長いこと行っております。ですので、名取とカナダのつながりというものを考えますと「カナダ」コーナーは必ず必要であると思っておりますので、新図書館においても「カナダ」コーナーは充実させていきたいと思っています。

ホームページの充実等により図書館からの情報発信機能を充実します。ホームページや SNS を活用して図書館から積極的に情報を発信していきたいと思っています。

MLA 連携も視野に入れます。MLA という言葉はあまり聞き慣れない言葉かと思いますが、M は博物館、L は図書館、A は文書館・資料館のそれぞれ英語の頭文字をあわせたものです。これは図書館が持っている書籍の資料と、博物館の持っている現物資料を組み合わせて展示することで、サービスの魅力が高まるということです。このようなことも視野に入れて新しい図書館を考えていきたいと思っています。

11 ページになります。

ここからは図書館の施設整備に関する基本的な考え方ということになります。

立地については、先ほど再開発推進室から説明がありましたように、すでに名取駅前ということで進んでおります。

建築の考え方ですが、「やすらぎ」「つどい」「ひろがる」の 3 つのキーワードに基づき施設をつくりたいと思っています。

①利用しやすい施設についてです。

全ての人が利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した施設とします。

利用者の動線を考慮したスペース配置とサインを施し、また、同時に職員がサービスを展開しやすい機能的な施設にしたいと思います。

無線 LAN の整備等、IT 技術に対応した施設にします。

将来的な図書館機能の変化や資料内容の変化に柔軟に対応できる施設とします。

②安心・安全・快適な施設についてです。

施設構造や設置備品の安全性を高めた、安心して利用できる施設とします。

可能な限り死角が生じない等、防犯対策が十分に考慮された施設にしたいと思います。

室温、湿度、採光、設備の色調やデザイン等、利用者が快適に過ごせる施設にしたいと思います。

全体的に木の温もりが感じられる温かみのあるデザインにしたいと思います。

③環境性能と維持コストに配慮した建築についてです。

採光や熱効率に優れた建築にしたいと思います。

照明、空調設備等については、環境負荷と維持コストの低減を図りたいと思っています。

④うるおいとにぎわいのある施設についてです。

館内には子どもから高齢者まですべての市民が憩える空間を設けます。

子どものためのゾーンや交流ゾーン、調査研究や静かに読書をするためのゾーン等、多様な活用にあわせたデザインを工夫していきます。

⑤手入れがしやすく経年劣化を受けにくい施設についてです。

維持管理しやすい施設とします。

設計、施行及び設置備品については、シンプルかつ頑強さも重視します。

12 ページになります。

機能配置の考え方です。これは各スペースの連携イメージということでゾーンの概念図となっています。サービスカウンターを中心としてこのように配置をしてみたいと思います。

13 ページになります。

スペース別面積の目安ということで、施設面積 3,300 m²を考えた場合のおおよその目安ということで書いてあります。あくまでもおおよその目安です。

各スペースの考え方ですが、エントランススペースは玄関ホールのほか、交流スペースも兼ねたスペースと考えています。交流活動を行えるようなスペースにしたいと思っています。また、カフェコーナーもつくりたいと考えています。

14 ページになります。

開架スペースの考え方ですが、一般・青少年について車椅子使用者やブックトラックと一般利用者がぶつからないように、通行できるように書架間隔はきちんと取りたいと思っています。また、たくさんの来館者が見込まれるので 200 席以上は座席数を確保したいと思っています。

児童のスペースですが、こちらは温かみのあるスペース、子どもたちが騒いでも大丈夫なように一般開架スペースとは離れたところに考えております。

新聞・雑誌のスペースはできるだけ入口から近い場所に設置したいと考えています。新聞・雑誌のコーナーでは開放的でくつろいだ雰囲気の中で読書ができるようなコーナーをイメージしています。

視聴覚資料のコーナーは図書とは切り離れたところを考えておりますが、テーマ次第では図書とあわせて展示することも考えてまいりたいと思います。

インターネットのコーナーは持ち込みのパソコンを利用したいという人のためのコーナーをつくりたいと考えております。また、データベース検索用のパソコンも設置します。

15 ページになります。

その他としまして、サービスカウンター、資料検索機、自動貸出機、自動返却機、予約棚、記載台などありますが、利用者の通行の妨げにならないような場所に配置したいと思っています。

調査研究スペースですが、調査研究スペースには参考図書、地域資料、学習室といったものが配置されます。

書庫スペースとは、閉架書庫のことですが、閉架書庫は狭いスペースにもたくさん収

蔵できるように集密書庫を考えております。

ボランティアスペースというものも考えております。ボランティアさんが活動するためのスペースですが、できるだけ事務室に近いところに置きたいと考えています。

16 ページになります。

多目的ルームは図書館の中に設置する考えです。必要な椅子の数は 50 席程度と考えています。

管理運営スペース・その他は割愛させていただきます。

17 ページになります。

新図書館の管理運営に関する基本的な考え方になります。

運営の在り方は名取市図書館では、市直営というふうと考えております。こちらは開館時間や休館日、市民サービスといったことを考えて見直しを行います。利用者の方からさまざまな要望が出るかとは思いますが、利便性と効率については十分検討して最善のものを選択して直営で行っていきたいと考えています。

業務効率については、先ほど申しましたように IC タグを導入しまして、できるだけ効率化してまいりたいと思っています。

安全管理体制ですが、こちらは公共施設ということで、特に名取駅前の複合ビルですのでさまざまな方が図書館に来られます。想定されるトラブルがいろいろありますが、自然災害も含め備えを十分にしたいと考えております。

以上、大変駆け足ですが新図書館の基本的な考え方についての説明はこれで終わりになります。この考え方を図面に落とし込んだ場合どのようなようになるかというものについて、大まかにゾーンを書いた資料がこちらの図面になります。引き続きこちらについて説明をさせていただきたいと思しますので、図面をご覧ください。

再開発推進室から説明がありましたように、図書館は 4 階建てビルの 2・3 階部分になります。

2 階がペDESTリアンデッキからつながっている入口ということなのですが、複合ビルということで制約がたくさんあります。ここは動かせないという決まったところもある中で、先ほど説明しました考え方をどう落とし込んでいくかということになります。

まず、最初の図面はビルの 2 階の平面図になります。ロビーから入って最初にあるのは情報交流コーナーということで、カフェなどは入口付近に設置したいと思っています。

新聞・雑誌コーナーはその隣、それから一番奥まったところになりますが児童・子どもスペースと考えています。

トイレの位置や階段の位置はすでに決まっていますので動かさせません。子どもたちはトイレに近い方が良いでしょうと思いますので、奥まった場所で考えたいと思います。

次のページは 3 階の平面図になります。全て一般開架、大人のためのコーナーと考えています。この図面の右下にある歴史博物コーナーは、現在名取市には歴史資料館がないことから新図書館の建設にあわせて整備したいということから、今までに展示していなかった博物資料を展示するようなコーナーをつくることにしました。先ほど MLA 連携ということを申しましたが、そのような意味でも名取市図書館ではとてもためになる

ことではないかと考えております。歴史博物コーナーの場所はこの図面上で右下になるようにしたいと思っています。

2・3階ですが、2階部分はざわついてもいいような、少々音をたてても全然構わないようなにぎやかなフロアというイメージ。

それから3階の方は静寂のフロアというようなイメージを持っています。

以上により、大まかなゾーンについてこのように考えております。下の3枚は1階から4階の平面図となっておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

大変時間を取ってしまい申し訳ありませんでした。以上で私からの説明を終わらせていただきます。

◎早川委員長

ありがとうございました。かなり盛りだくさんの内容でございますが、進め方としてまず基本的な考え方の1ページから10ページまで、新しい図書館の機能とサービスの部分について、次に11ページ以降施設についてご質問・ご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

◇質疑応答及び意見交換

◎早川委員長

最初のサービス・機能面の部分が建物に反映をしていく、建物がサービス・機能面を実現する器という考え方がよく言われておりますけれども、ここの考えが非常に重要になってくると思われます。

◎板橋委員

大学は何時ごろまで授業されていますか。

◎天間委員

授業は午後5時40分です。

◎板橋委員

開館時間はどうなるのか。

◎柴崎館長

新しい図書館においては、火曜日から金曜日までが午前10時から午後8時、土・日・祝日が午前10時から午後6時となります。

◎板橋委員

では大学生も使える時間ということになり大丈夫ですね。

◎長沼委員

月曜日の休館ですが祝日と重なることが多いと思うのですが、その場合閉館すると捉

えてよろしいのでしょうか。

◎柴崎館長

現在は休館と考えていましたが、別の日を休館にするなど、その取り扱いについては今後検討していきます。

◎早川委員長

月曜日が祝日になるのが今の暦ですと非常に多いです。他の図書館の例の一つですが、月曜日が祝日に重なった場合は、月曜祝日を開館して次の火曜日を休ませていただき、職員のローテーションを確保しているというところもございますので、そういったところも視野に入れながら利用の方がさらに利用しやすくなることを考えるとよいのではないのでしょうか。

◎岡本アドバイザー

暦をみてよく検討するのがよいかと思います。近年月曜日が祝日に重なっているのが増えたのはハッピーマンデー法の影響がかなり大きいと思われます。ただし、ハッピーマンデー法は現在相当見直しがなされていて、祝日の意義が薄れるということで、例えば再来年ぐらいから海の日は元の7月20日に固定することになります。現時点ではハッピーマンデー法が適用される祝日は4日間しかないのですが、これに現在かなり見直しの動きが入っておりまして、成人の日、海の日、敬老の日、体育の日がハッピーマンデーの対象になっています。それぞれ意味が本来ある日なので元に戻すべきではないかという議論がかなりなされています。開館後の先々の10年、20年でも先の暦がわかりますので、果たして本当にどれぐらいの影響があるかということも見ながら考えたらよいのではないかと思います。今すぐ結論を出さなくてもこの先々を見通して考えることはできると思います。

◎板橋委員

学習室の設置はどちらに考えているのでしょうか。

◎柴崎館長

3階の一般開架に設置することを考えています。

◎板橋委員

閲覧室では本を汚されないよう飲食しない方がよいと思われませんが、カフェはお金を出してコーヒー等を飲むところでしょうか。ある場所では持参したものを飲食できるスペースを確保しているところもあります。どんなカフェを考えているのでしょうか。

◎柴崎館長

図書館内での飲食の考え方は、基本的に蓋付きペットボトル等、蓋の付いている飲み物は全館持ち込み可と考えています。カフェはロビーに一番近い場所に設置し、有料でコーヒーを提供するというように考えています。カフェで購入したものは図面上の「情報交流ゾーン」を自由に飲食できる場所としたいと考えています。

◎板橋委員

キャップできる飲み物は館内に持ち込んでもよいということでしたが、閲覧室では飲

食できないですよ。

◎柴崎館長

現在の名取市図書館においても、閲覧室での蓋付きペットボトル等は持ち込んでも構わないとしております。

◎板橋委員

館内全てではなく、カフェ室で飲む程度であればよいと思います。

◎岡本アドバイザー

昨今の流れとして、図書館は滞在時間を比較的増やしていく方向にあります。一般的に滞在型図書館と言うのですが、ただ来て借りるだけではなく、そこで比較的長時間を過ごす方が増えてきています。実際に統計で調べてみると、そのような利用をされる方が全体の多くても2割ぐらいなのですが、カフェ代り・勉強部屋代り・書齋代りに図書館を使われる方が増えてきています。このような方からすると仕事をしながら、あるいは調査研究、本を読みながらちょっとのどを潤したいというニーズがかなり出ています。大学図書館ではこのことはかなり進んでいます。大学図書館では学生が勉強する時間がある程度長いので蓋付きペットボトルの使用を認められています。おそらくご懸念になれる箇所ですとやはり資料を汚すのではないかとということですが、実行している図書館で資料を汚されているケースは殆どないです。かなり気を付けるので、どうしても偶発的な事故はあるそうですが、それぞれの規定に応じて弁済していただくという形をとっているのが一般的です。この議論で重要なのは、もし資料を汚すという恐れでいった場合、貸出しをした資料を自宅に持ち帰った場合は結局飲食しながら本を読まれるので、リスクという意味では、実は他人の目が無いので自宅に持って帰ってもらった方が恐いです。あと最近もう一つ言われているのは長期滞在的な形でご利用いただく際に、昨今様々な感染症や病気の問題が言われていますので、きちんとのどを潤すということ自体が健康管理上とても重要なのではないかと、そういう意味で公共のホールでも水の持ち込みを禁止しているところが多いですけれども、あれがそもそも本来的に衛生管理的に正しいことなのかという議論がかなりあります。特に昨今インフルエンザ等が社会的インパクトを持ち出してきていますので、全体的に公共施設における飲食、特にのどを潤す程度については許容してもいいのではないかと議論が比較的強く起こっています。あともう一点、飲み物に関しては臭いの配慮になってくるかと思えます。コーヒーや紅茶の場合、それが好きだと方も当然いらっしゃいますけれども、中にはコーヒーの強いにおいが苦手だという方もいらっしゃるかと思えます。これは個人の嗜好なので、言い出したら切が無い部分もありますが、ただ同時に図書館は公共の空間で誰もが自由に来て良い場所ですので、そのにおいが苦手だから来れなくなっちゃうという方を生み出さない程度に、しかし同時に誰もが使える場所なので、あまり自分はその臭いが得意じゃないから困ると言われすぎないように、この辺の折り合いをどうつけるのかというあたりが課題になってくるかと思えます。図書館は市民の場ですので、市民同士でどこまでがお互いの許容で許し合うラインにするのか、利用者方々自身の合意で決めていただく必要があるかと思えます。

◎早川委員長

私の方からですが、資料 新図書館の基本的な考え方 3 ページ②低い木製書架の導入検討にある「木製書架は、スチール製の書架と比較すると高価である」というのは入札の仕方を考えると一概には断言しにくいと思います。木製書架というのは非常に温かみがあって、夜、図書館の明かりから見える木製書架というものは名取駅前にとってもプラスになることだと思いますので、木製書架＝高価だという考えでなくもっと柔軟に考えられた方が良くないかと思えます。

◎早川委員長

同じく 5 ページの「蔵書冊数」ですが、最大収蔵能力 30 万点、開館時 18 万点、年間 1 万点以上というのは、名取市の人口規模と名取市の財政状況から考えると少なすぎると思います。一旦この図書館を建てれば 40 年は使うと思いますので、収蔵能力はできれば 50 万点近くに上げられればと思います。もちろんいろいろな制約はあるかと思えますけれども。

◎早川委員長

同じく 5 ページの「年間購入冊数」ですが、これは 2 万点ぐらい目標にすべきではないでしょうか。2 万点が年間増えれば 5 年で 10 万点増えるということです。30 年、40 年使うんだという視点、名取の皆様の方の非常に貴重な知的財産を 30 年、40 年ここで提供するんだという視点に立って、もちろん制約あることは建築を担当している方にはぎょっとするような意見だとは思いますが、そこのところなるべくきちんと考えられた方がよろしいと思えます。

◎早川委員長

同じく 7 ページの「商用データベースの提供で有料化も視野に検討します」とありますが、私の経験からいっても、有料化にすると利用頻度が極端に落ちる可能性があります。今だんだん有料データベースが 4,5 年前よりも廉価になってきていますので、そのところも交渉も含めて原則的に無料で提供してもらいたいと思えます。私は有料化には反対です。全て無料で提供することが市民の方にも喜ばれて活発に商用データベースが使われてサービスの向上につながるのではないかと考えます。

◎岡本アドバイザー

商用データベースについてよく裏をとった方がよいのではないかと考えられます。生涯学習支援の答申が平成 10 年、その後 1 回図書館法の改正が入って、電子資料を収集対象にするという規定が追加されているかと思えますので、この見解自体が現時点において文科省の見解として有効かを確認した方が良くないかと思えます。今の図書館法ですと、図書館法の中に図書館はこういう資料を収集するという規定がございまして、その中に電子的な媒体のものも可能な限り収集した方が良くないかと規定があります。そこからしますと今度はその電子的な媒体というものにこのオンラインデータベースが入るのかという問題があるのですが、ある程度そこに包摂されるのではないかとこの仮に今の文科

省の見解であった場合に、逆に税金で負担することの方が、本来の原則になりうるという考えになるのだと思います。もしその見解でしたら、例えばそのための助成金を国等から確保する、という手法も出てくるのではないかと思います。早川委員長がおっしゃられたように現在かなり安くなってきています。統一価格について実際は無いです。ベンダーさんがそれぞれの自治体の規模館に応じて価格設定されますので、交渉しながらどういう形で落とし込むのが良いのかというのを法的根拠も含めて詰めていくのが良いのではないかと思います。

◎板橋委員

まず10ページの「広がる情報発信」について、図面3ページに歴史の部屋みたいなものがありますが、名取市は歴史的に東街道や紀州和歌山を起源とする熊野三社や遺跡があるなどその他いっぱいあるので、歴史博物コーナーや広がる情報発信の中に「歴史の町」というものを入れてもらいたいと思います。また、空港関連についても入れてもよろしいのではないかと思います。

次に安全性のためなのですが、本は盗まれることが多いんですね。だからタグみたいなものを入れて、図書館から出るときに感知するようなものを導入するのでしょうか。

◎柴崎館長

名取市は歴史のある町なのでさまざまな歴史の資料がありますが、おっしゃるとおり歴史博物コーナーに入れていきたいと考えています。先ほど説明し忘れましたが、ICタグを貼り盗難防止のゲートを設置して盗難を防ぐということもできますので導入の方向で考えています。

◎板橋委員

あまり低いところにタグを感知するところが下の方にあると背の大きい人はリュックに入るとわからないという例があるようである。ケースだけ置いて持っていくようなこともあるようですから注意した方が良いでしょうと思います。

閲覧室は全部パソコンを利用できるのではなくて、ある程度この列だけ自由に利用できますよ、とした方が良いでしょうかなと思います。閲覧室全部パソコンをつなげるような電源を設置するのではなくて、ある程度のところにパソコンの設置可能な場所だと限定した方が良いでしょうかなと、私の考えですけれども他の図書館のように隣で本を読んでいる人がいるのにパソコンをしているというよりは、パソコンコーナーを設けた方がよろしいかなと思います。

◎岡本アドバイザー

ICタグの部分について補足説明させてください。まだ名取市では導入されていないのでイメージをつかみにくいかなとは思いますが、ICタグというタグ、おそらくみなさんが日常生活で一番見ている機会があるとすればユニクロさんなどに行かれた際に必ず店員さんがそのタグを外しているはずなんですね。服に大概付いています。それを付けておくことで、無断持ち出しを防止するという一方で、一般的によく使われているのは衣料品、ツタヤさんのようなCD・DVDのレンタルですね、ゲートがあつてちゃんとチェックをしていない場合はビープと音が鳴るという形で無断持ち出しを防止する仕組み

になります。タグは今ものすごく薄くなってしまっていて、たぶんタグのことを知らない方は気づかないぐらい小さなものです。これを使うことで図書館からの本の無断持ち出しをある程度防止ができます。ただここであらかじめ特に市民の方にご理解いただきたいのは、入れることは非常に良いと思うのですが、100%の防止はまず無理です。結局確信犯が本当に盗もうと思った場合に、図書館のように市民どなたも来てください、あらゆる方を歓迎しますといった施設の場合、やはり市民の方を疑ってかかることはできないので、他の自治体で実際に起きているケースですが、タグの仕組みを理解していた場合、タグのページを切り離せば感知器は作動しません。あるいはよくあるケースとしては、お手洗いに本を持ち込んで窓から本を放り出し、そこにバックアップ要員がいてピックアップして持ち出すというケースがあり、実際に現行犯逮捕もされています。これは図書館ではよく知られている事例ですが、本当に犯行しようと悪意を持って来た方がいた場合は、恐らく防ぐのは難しいです。これを防ごうとすると、ゲートで荷物チェックをするというようなことになってしまい公共施設としては本末転倒なことになります。新図書館が建つまでまだ時間がありますのでシステム的にはより向上していくとは思いますが、人を信じる前提の施設である以上 100%の管理はできない、ある程度防止しきれないことは起こりえるということは、市民の方にはぜひご理解いただきたい、ある程度は仕方がないと思っていただくしかないと思います。ここの部分をご理解いただけないと、時々他の自治体で起きるのですが、年間数百点程度盗まれるケースが起きており、その数百点をもってシステムを入れているのに行政は何をやっているんだという声が出てしまうと、図書館側としては非常に辛い立場になってしまうんですね。ここの部分はある程度そういうものだと思っていただきたい。さらにこの計画の書かれておりますが、管理のためだけではなくもっと楽しい使い方、例えば読書をもっと提案するような仕組みに IC タグを使うことができないかということは館長たちと話をしております。ですので、単なる管理だけではなく楽しむための機能として IC タグを入れていく、そのための予算立てをしていくというようにお考えいただくのが良いかと思っております。あと板橋委員よりもう一つありましたパソコンの件ですが、やはり多くの図書館でパソコンを使えるゾーンと静かに読書したいゾーンとはかなり分けています。ただ今回の場合、建てたら向こう 30 年、40 年使い続ける施設になると思います。将来のこと、30 年後のことはここにいる誰にも分かりませんので、将来的にはパソコンが当たり前になっている、あるいは書籍そのものがいわゆる電子書籍化しているということも見据えた上で全ての席に電源が取れるようにしていた方が良いのではないかと思います。あるいは計画にありますように、室内全体に無線 LAN が飛んでいると、ただ当初の段階においては例えばレイアウト上この辺はパソコンを使う人、この辺は静かに読書したい人、あるいは多少おしゃべりをしてもいいようなコーナーというように、専門的にはゾーニングというのですが、ゾーンをどういうふうに分けるかということで使い方はそれぞれ使う人次第なので、それぞれの使い方がお互いあまり過度に干渉しあわないような形の場の設計・配置というものができると思います。実際最近の新設される図書館はかなりこの手の工夫をされておまして、今回の名取市の図書館はものすごく大きいというわけではないのですが、それでも一定の平米数ございますので、きちっとゾーニングするこ

とによってお互いの動き、快適な環境での図書館利用が実現できるのではないかと思います。

◎三塚委員

お話の部屋について伺いたいのですが、どんなふうに考えていらっしゃいますか。

◎柴崎館長

お話の部屋は2階部分の児童開架の一角につくりたいと思っています。ただ1段高くなったというようなものではなく、子どもがちょっと楽しんで部屋の中に入れるようなデザイン、例えばお話が始まったら扉を閉めてお話に集中できるような部屋であるとか、お話会の無いときにはオープンにするとか、そこに入っていったら子どもがわくわくするようなお部屋のデザインができればいいなと考えています。

◎早川委員長

それでは11ページ以降、施設整備の件も含めてご質問・ご意見いただければと思います。

◎下澤委員

先ほど岡本アドバイザーからお話いただいた IC タグを図書館で楽しむためにどのような使い方ができますか。

◎岡本アドバイザー

あくまで特定事業者さんが提案しているもので一案とお考えいただければと思いますが、いわゆるスマートフォンの所持率が非常に上がっておりまして、最新の統計ですと世帯別で見ますと約7割の世帯にスマートフォンが普及しています。これは世帯統計ですので個人統計でしたら恐らくもっと高くなると思われます。IC タグというのは要するにちょっとした電波を発信する仕掛けになっているわけですが、その電波を読み取ることがスマートフォンではできます。ですので例えば本にスマートフォンをかざすと、この本に関心がある人はこういう本もお勧めですよとか、この本の著者についてもう少し詳しい情報等をみるとか、あるいは地域の資料であれば、例えば実方中将の本にスマートフォンをかざしたときに、それに関連する遺跡が市内のここにありますよといった形で本を起点にさらなる情報の世界に対して、利用者の方を誘導していくという仕組みをいくつか提案されて実際にそこまでまだうまく使われてはいませんが、導入している図書館は存在しています。

◎早川委員長

あと私がいた南相馬市（パンフレットを紹介しながら）、このようなかなり大型の図書館なんですけれども、造りも非常に個性的な、今までにないようなつくりをしている図書館なのですが、ここも IC タグを採用しております。まず一番に IC タグを採用した理由ですが、利用される方の利用の利便性向上になるのかどうか、今のご質問含めて、一番な点が盗難防止ゲート内に入ってしまうと、その先にひろがっているのは利用者の方にとって極めて自由な空間になるということです。今まで見えない部分、死角はつく

ってはいけないというような図書館建築の時代が長かったのですが、ICの技術を使ってしまうと利用者にとってみれば自分の落ち着く空間を見付けられるというのは非常に楽しいことだと思うんですね。不必要な視線を気にしないで、自分の気に入った、お気に入りの場所を見付けてゆっくり本を読んだりパソコンを使ったりということがICを採用すると飛躍的に可能性がひろがっていきます。入口を通過してしまえば大きなバッグを持って入ってもいいですし、それがまず可能になるということでございます。2点目としては、セルフ貸出機の導入が非常に容易になる、がさがさとかこういうふうを重ねて、南相馬はカードもICなんですけれども、いっしょにばらばらと重ねてタッチパネルを2回ぐらい操作すると右側からICが出てきてそのまま出ていけると、非常に貸出しのスピードも上がる可能性が高まるということがございます。あと盗難に関してですが、南相馬の例を申し上げますと、ほとんど無いに等しいぐらいです。あとはもう一つ、雑誌への切り抜き、書き込みは職員の間ではほとんど話題になったことはございません。南相馬は震災前の利用が年間60万人の入館者で60万点ぐらいですけれども、一番大切なことは名取の図書館は市民の方たちみなさんのものだ、自分達が待ち望んだ素敵なお図書館が今度できるんだというような市役所側にも機運を盛り上げていただいて、自分達は図書館が好きだという方を増やしていけば、黙って持って行ったり汚したりする方というのは本当に減ると思います。私の少ない経験からですけれども、ところがあまり好かれていない図書館は盗難・切り抜きそういうものが多いのではないかなと推測しております。これについて断言はできませんけれども、ですので今度できる図書館はみんなに慕われる、できて良かったというようなものが実現できれば、名取市の皆さんにとって大きな喜びでもありますし、図書館側行政にとっても大きな喜びになれば一番いいのかなというふうに考えます。

◎岡本アドバイザー

今、早川委員長から説明があったのは全くそのとおりでして、なかなか盗難の統計は図書館自体も発表してはならないのですが、最近出た衝撃的な数字としては、横浜市で年間2万点盗難されているというものがあります。やはり明らかな傾向として大都市は確実にこうなります。市民の方が行政は単なるサービスだという認識をされるので、書店も図書館も捉え方として差が無いわけですね。名取のような合併をせずに小さな自治体であることを選んだ自治体の場合は、市民の方が地域に対する愛着や誇りの持ち方が横浜のような大都市と全く違うので、私も3年間この名取にずっと通っていますが、顕著にその意識の差というのは感じますから、そこは市民の方々とつくりあげていくという形であれば大切な自分たちの財産を自ら傷つけるというようなことはなかなか考えにくいとは思いますが。小さな自治体の場合は、たかが図書館の本を盗むことが発覚した場合、失うリスクが大きい。単に罪を問われるだけではなく、下手をすると地域で住んでいけなくなってしまうので、そういう意味では比較的いわゆる近所の中でのお互いの見つけあい、声のかけあいみたいなものが上手く機能しやすいのだとは思いますが。ただ一方でイオンもあって仙台からも名取は相当人がいらっしゃいますので、そういう方々からするとやっぱり自分の町じゃないという認識もお持ちだと思いますから、そういうことも含めてバランスとしてICタグを入れながら、ほどほどに管理をしていくというのが良い

ところなのかなと思います。

◎福間委員

複合施設ということで駐輪場と駐車場はどのくらいの台数を確保するお考えでしょうか。

◎車塚室長

駐車場の考え方なのですが、先ほどの再開発の資料 2 ページの中の北側という P 棟というパーキング棟がございます。この中に 102 台というふうに記載しておりますが、今のところこの 102 台分のスペース、3 ページに断面図がありますけれど、自走式の駐車場ということで 2 層 3 段スキップ式というふうになっています。自走して段々階を上がっていきながら駐車するという駐車場になりますけれども、これが 102 台分ということになります。実はこれについては、当初 154 台駐車台数の確保というのが企画提案の時に出てまいりました。概要 1 の 2 ページを見ていただくと分かるのですが、左上の部分が角欠けになっている部分の土地の所有者の方が残念ながらどうしても土地をお譲りいただけないということで、北西角の部分が欠けております。この分が実は減ってしまったということになります。当初 154 台ぐらい欲しかったのですが 102 台という台数になっております。もう一つ 3 ページを見ていただくと 2 層 3 段となっております、この上にもうちょっと上げれば台数が増えるのではないかというご意見があります。実はこの再開発地区というのは都市計画の用途、用途地域というのですが、商業地域ということになっており、ビル等も建てられる用途地区になっておりますが、このパーキング棟の道路を挟んで北側の部分が第一種住居地域となっております、日照の影響を考慮しなければいけない場所ということになります。3 ページの図面を見ていただくと分かりますが、左側が県道になっておりまして、集合住宅が一番前、前面に来て、それから段々北にいくに従って施設が下がっていくのがわかると思います。実は日照を考慮すると、当初はこの集合住宅が一番北側に配置したかったのですが、公民館や図書館がなぜ前に来ていないのとよく出てくるんですけども、これは都市計画上の地域の用途規制があるということをご理解していただきたいと思います。駐車場についてもこれ以上は上げられないというものがあまして、一応 102 台という形で考えております。それと駐輪場につきましては駐車場の A 3 版の大きい図面の 1 階に駐車場の西側に部分に駐輪場を考えております。台数は図面上 48 台となっておりますが 48 台+24 台で計 72 台を見込んでおります。

◎福間委員

これは複合施設ということで他の店舗の方々も利用するという事なのでしょうか。

◎車塚室長

この 102 台の駐車場につきましては集合住宅マンション棟の方々が 1 世帯 1 台というのがありまして、結局お客様がご利用できる駐車場といたしましては 102 台から 54 台引いて 48 台ということになってまいります。駐車場台数が少ないのではないかという意見もいただいておりますことから、事業概要の 2 ページを見ていただくと分かるんですけども、駅東の広場の駐車場が多くても半分ぐらいしか使われていないという実態があ

りますのでこれを使えないか、もう一つはこの概要書の 2 ページの 1 番ですが、公共施設棟の東側に平置きになりますけれども駐車スペースを確保したいと考えております。それとお客様だけの駐車ではなく職員であるとか社員さんであるとか駐車場が必要になってくると思います。この駐車場につきましては今まで増田公民館の駐車場あったと思うんですけれどもあちらの一部を使いたいと考えております。それから駅前駐車スペースを確保するのはなかなか難しいのですが、民間の駐車場もごございますのでそこを利用するとか、そういったところも出てくるのかなと思っております。

◎福間委員

有料になるのでしょうか。

◎車塚室長

駐車場の運用についてはこれから検討していくことになります。

◎福間委員

私はよく若林図書館の駐車場を使うのですが、あそこは有料なんですね。どうしても街中になりますと、名取のこの立地ですと私は有料でも仕方がないのかなと、これからは本当に車社会で図書館に来て短期間でも利用したい、あるいはじっくりと楽しむ方と本を借りてご自宅で読まれる方、さまざまだと思いますので、若林図書館は有料ですが私自身はそれほど負担には感じてはいません。私の意見ですけれども。

◎早川委員長

他にご質問・ご意見はありますか。

無いようですので、それでは（４）今後の委員会の持ち方について事務局からご説明をお願いします。

（４）今後の委員会の持ち方について

◎事務局

次回の委員会でごございますけれども、タイトな日程で申し訳ないのですが、年内にもう 1 回程度開催したいと考えております。日程につきましては改めてご連絡を差し上げるようになります。よろしく願いいたします。

◎早川委員長

年度内はトータルでどのように考えていますか。

◎事務局

年度内は今回を入れて 3 回を予定しています。次回の委員会は 12 月 1 回、3 回目は 1 月から 3 月の間に 1 回、開催予定です。

◎早川委員長

では続きまして、（５）その他に移ります。委員の皆様から特に何も無ければ事務局

からお願いします。

(5) その他

◎事務局

今回、資料等を事前送付できませんで、会議が大変だったのではないかと思います。お詫びを申し上げます。

◎早川委員長

先ほど申し上げましたように名取市にとっては大きな期待がかかり、一度つくってしまえば30年以上使うことになり、また将来名取を担う子どもたちのためにも最大の贈り物になると思いますので、これからもご忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。よろしくお願いします。以上で議事は終了とさせていただきます。では進行は事務局にお渡しいたします。

(議事が全て終了したことにより進行を議長から事務局に交代)

(6) 質疑応答

◎事務局

質疑応答は議事の中で既に行われたとしてご理解させていただいたとしてよろしいでしょうか。

(出席委員より了承される)

(7) 閉会

◎事務局

それでは閉会になります。閉会のあいさつを天間副委員長さんをお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

◎天間副委員長

本日は長時間にわたりまして大変ご苦労さまでした。私も名取市一市民といたしまして、しばらく新しい図書館はできないのかなあと感じておりましたが、まさに歩み出しができて実際に完成の時期まで示されました。そういう意味で本当に夢のある図書館ができる、またそういった仕事に少しでも関わることができるというのは光栄とともに喜びを感じております。皆さん、本日は本当にご苦労様でした。以上で閉会のあいさつとします。